

飼料用米の利用・需要拡大に向けた取組事例

平成 28 年 4 月

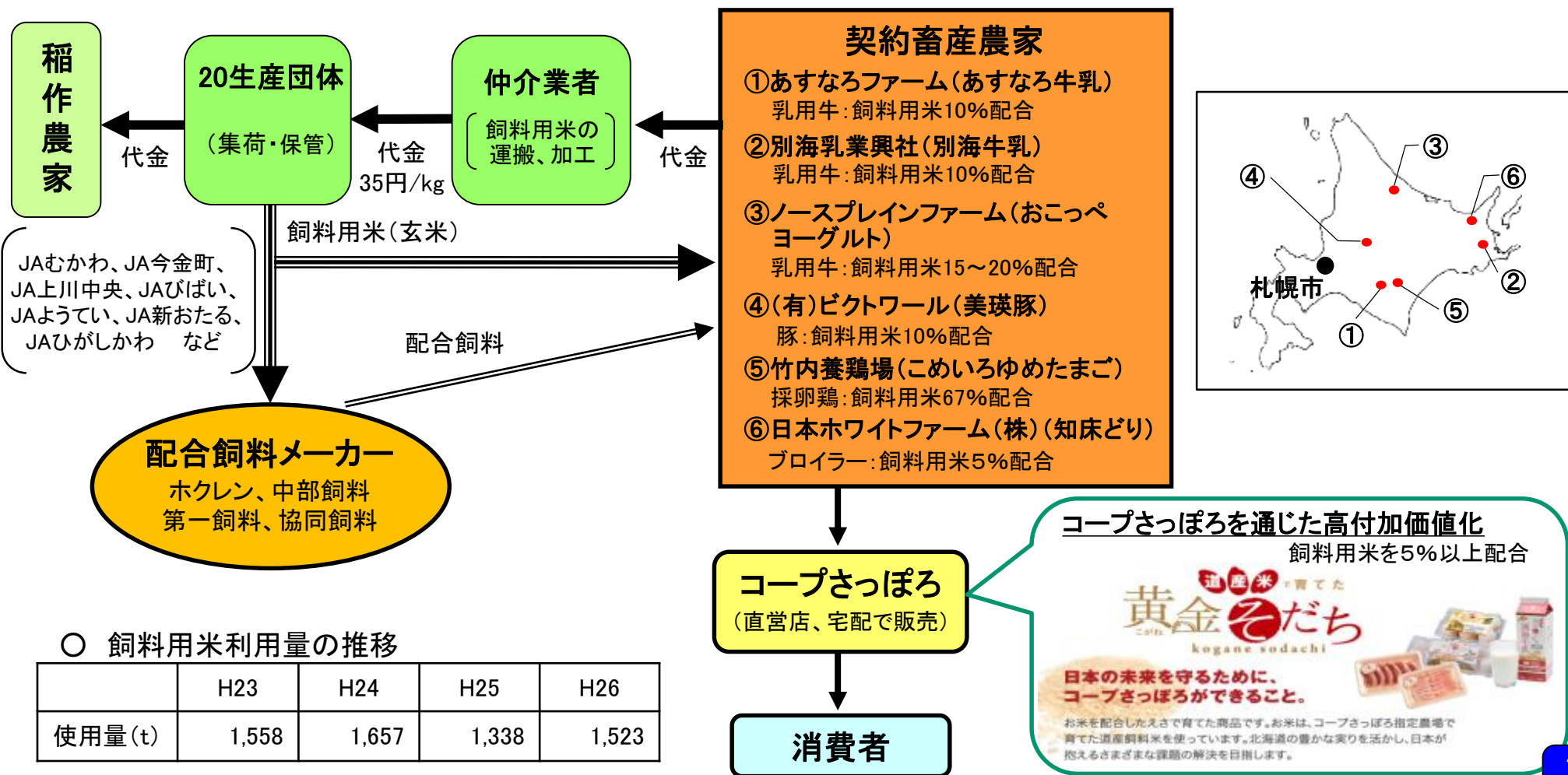
農林水産省

目次

北海道	【乳牛・豚・採卵鶏・ブロイラー】生活協同組合コープさっぽろ	1
青森県	【採卵鶏】 ^{ときわ} 常盤村養鶏農業協同組合	2
岩手県	【豚】(株)フリーデン	3
	【肉牛】(有)キロサ肉畜生産センター	4
秋田県	【豚】ポークランドグループ	5
山形県	【豚】(株)平田牧場	6
茨城県	【豚】(株)和家養豚場	7
	【ブロイラー】木徳神糧(株)、内外食品(株)	8
栃木県	【採卵鶏・ブロイラー】亀和田・北赤塚営農組合	9
千葉県	【豚】ブライトピックグループ	10
長野県	【採卵鶏】農事組合法人 会田共同養鶏組合	11
新潟県	【採卵鶏】村上・ ^{とよさか} 豊栄地区飼料用米生産利用推進協議会	12
富山県	【採卵鶏】小矢部市飼料用米推進協議会	13
石川県	【乳牛・豚】J A 石川かほく	14
岐阜県	【採卵鶏】岐阜養鶏農業協同組合	15
	【乳牛】臼井牧場	16
	【肉牛・豚・ブロイラー】下呂市飼料用米利用組合	17
兵庫県	【採卵鶏】(株)オクノ	18
島根県	【肉牛・豚・採卵鶏・ブロイラー】島根県飼料用米推進協議会	19
山口県	【ブロイラー】 ^{ふかわ} 深川養鶏農業協同組合	20
高知県	【豚】四万十農協飼料米活用研究会	21
熊本県	【肉牛】J A 菊池	22
大分県	【採卵鶏】(有)鈴木養鶏場	23
	【肉牛】 ^{ぶんご・こめしあげぎゅう} 豊後・米仕上牛	24

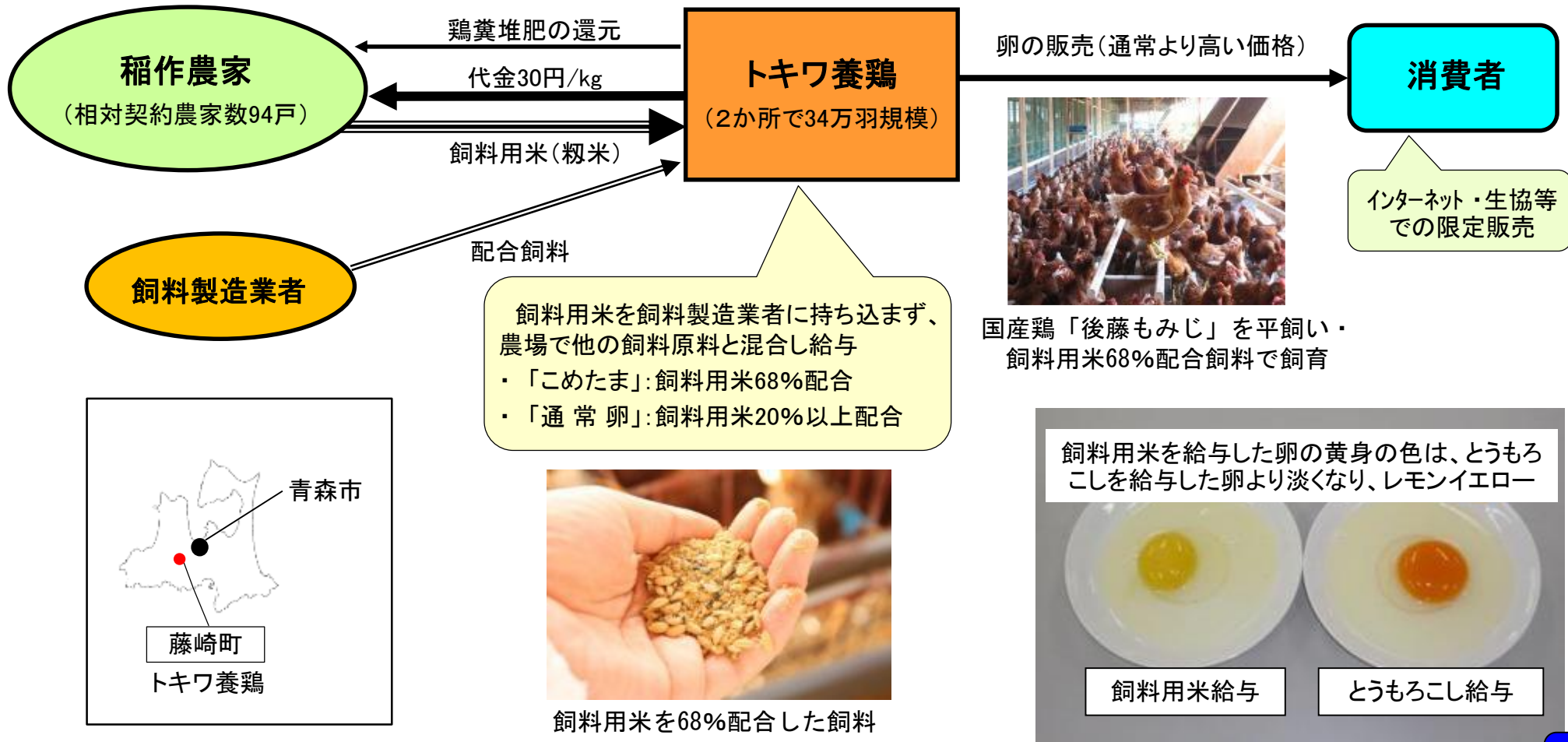
【乳牛・豚・採卵鶏・ブロイラー】（北海道 生活協同組合コープさっぽろ）

- JAからコープさっぽろに飼料用米生産の話があり、食料自給率向上のため、賛同する生産者、生産者団体とコープさっぽろ等が平成23年から飼料用米の取組を開始（意義：①田んぼがよみがえる！②CO2排出量を削減！③より安全・安心に！）。
- 18JAと2生産者が飼料用米を生産し、契約畜産農家が飼料用米を5%以上配合した飼料を乳用牛、養豚、採卵鶏、ブロイラーに給与。
- コープさっぽろが、生産された畜産物を「黄金（こがね）そだち」としてブランド化し、牛乳、ヨーグルト、豚肉、鶏肉、たまごなど16アイテムを店舗及び宅配で販売。



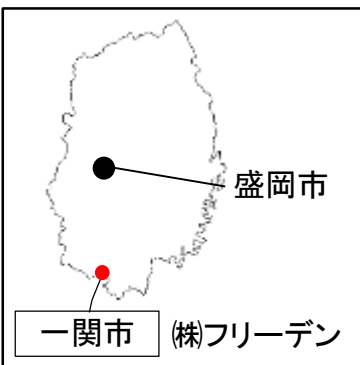
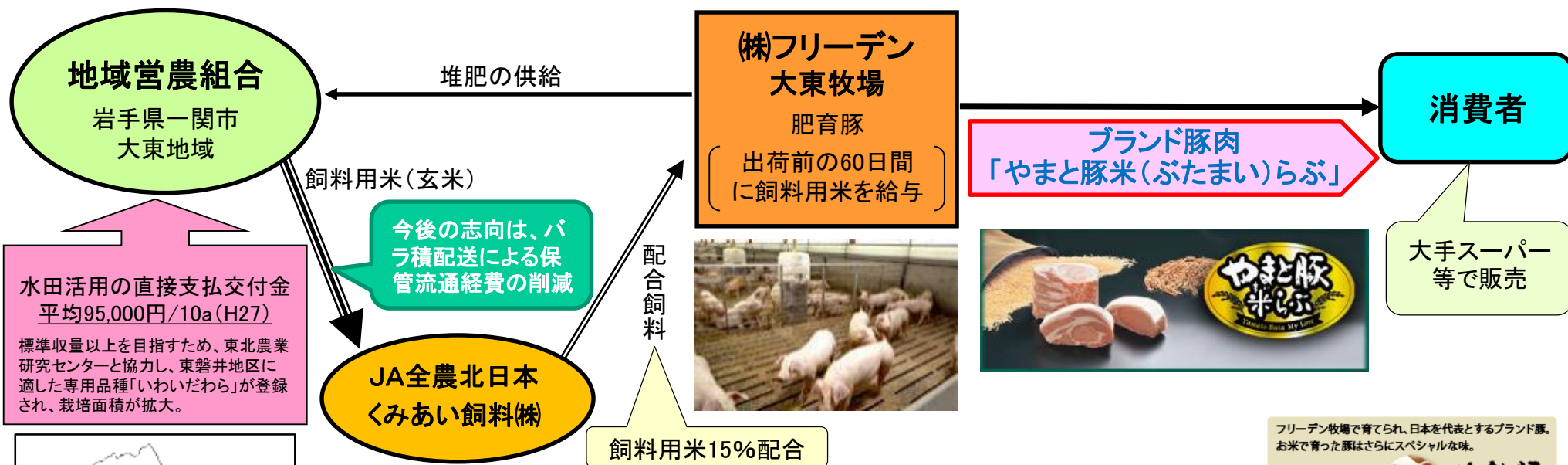
【採卵鶏】（青森県 常盤村養鶏農業協同組合《略称:トキワ養鶏》）

- トキワ養鶏では、地域の飼料自給率向上や循環型農業の推進を目的として、平成18年から飼料用米の取組を開始。
- 飼料用米の作付面積は、平成18年の1haから平成27年には507haに拡大。
- トキワ養鶏では、飼料用米を自場で配合飼料に混合して利用。飼料用米を68%配合した国産原料80%以上の飼料を、平飼いの国産鶏（2千羽）に給与。生産した卵を、「こめたま(平飼い)」として、生協系列を中心に販売。
- 「こめたま」以外の卵（通常卵）を生産する採卵鶏にも、飼料用米を20%以上配合した飼料を給与。



【豚】（岩手県（株）フリーデン）

- 湿田等の条件不利水田での新たな生産調整作物の模索、飼料自給率向上及び環境保全を目的として、平成15年に東京農業大学、（株）フリーデン、旧大東町、JA等を構成員とする「大東町飼料用米生産プロジェクト委員会」を立ち上げ、飼料用米の取組を開始。その後、平成18年に地域営農組合等と「フリーデングループ飼料米利活用推進協議会」を設立し、（株）フリーデンの堆肥を活用した資源循環型の飼料用米生産を推進。
- 飼料用米の作付面積は、平成19年の10.6haから平成27年には118.6haに拡大。
- （株）フリーデンでは、JA全農北日本くみあい飼料（株）で製造された、飼料用米を15%配合した飼料を肥育豚（出荷前の60日間）に給与。生産した豚肉を、「やまと豚米（ぶたまい）らぶ」として、関東及び関西のスーパーで販売。



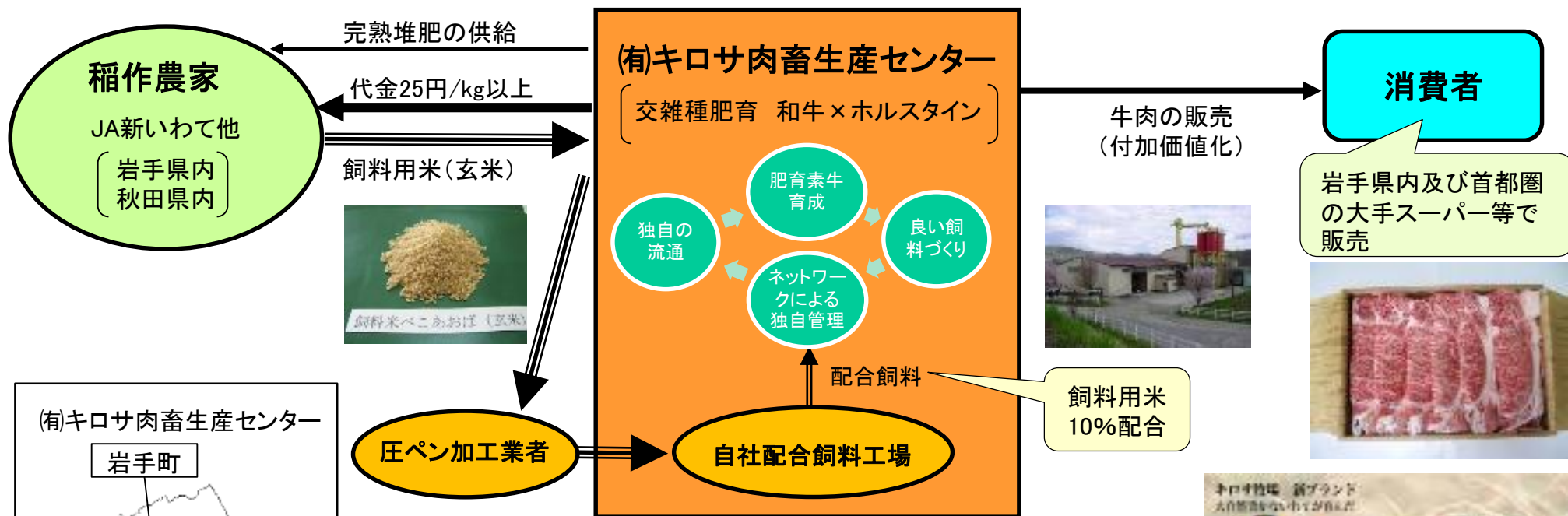
○ 一関市大東地域の（株）フリーデンが利用する飼料用米の生産状況

	H16	H19	H21	H23	H25	H27
作付面積 (ha)	5.5	10.6	30.3	77.7	84.5	118.6
生産量 (t)	23.2	59.1	161.7	389.7	389.3	693.9
単収 (kg/10a)	422	558	533.6	501.8	461.7	585.2



【肉牛】（岩手県（有）キロサ肉畜生産センター）

- （有）キロサ肉畜生産センターでは、トウモロコシの代替として安定した飼料原料の確保を検討した際に、飼料用米に注目。平成21年に飼料用米の試験給与を行い、平成22年から本格的に運用を開始。
- JA新しいわて他、岩手県内の生産農家や企業、秋田県内の企業から飼料用米（玄米）を購入し、県内の業者に加工を委託。加熱圧ペンされた飼料用米を自社配合飼料工場で混合し、飼料用米を10%配合した飼料を肥育牛（肥育後期）に給与。生産した牛肉を、玄米育ち「岩手めんこい黒牛」として、主に岩手県内及び首都圏で販売。



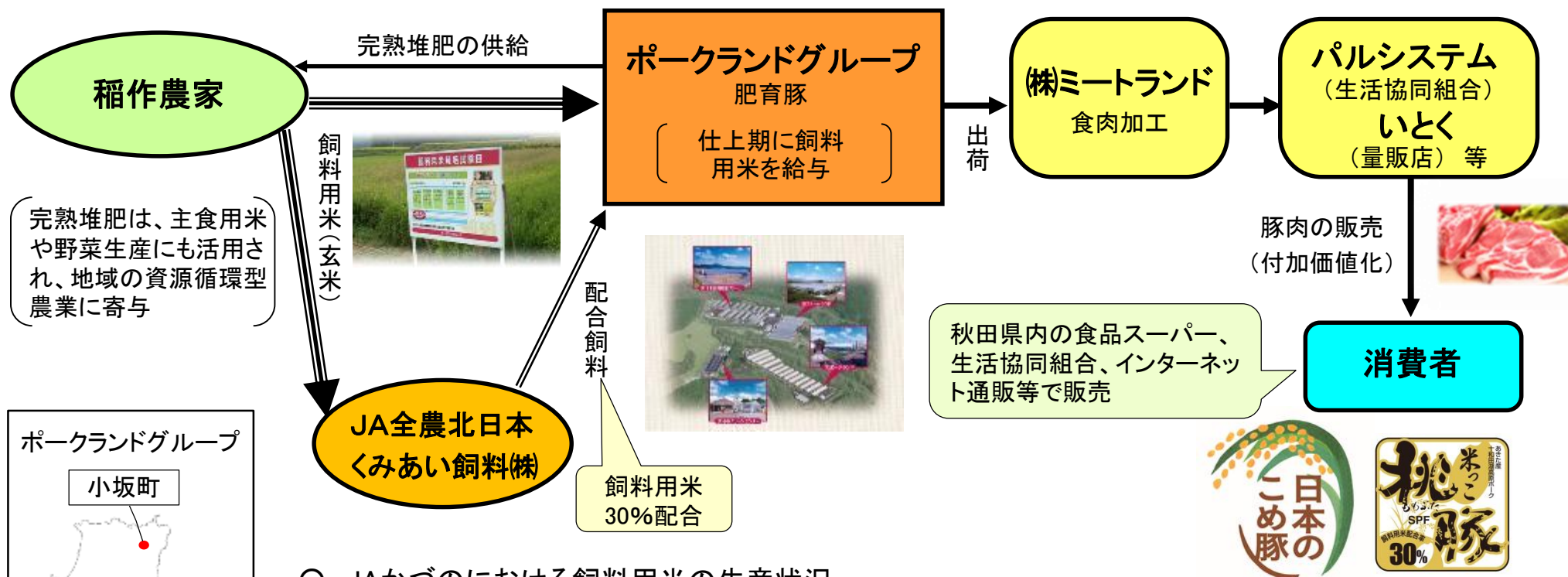
○ 岩手県、秋田県内のキロサが利用する飼料用米の生産状況

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
作付面積 (ha)	7	171	334	491	266	291	183
生産量 (t)	33	905	1,521	2,462	1,374	1,731	1,000
単収 (kg/10a)	471	529	455	501	517	595	546



【豚】（秋田県 ポークランドグループ）

- 休耕田となった田を蘇らせ、食料自給率の向上を目指すことや転作を目的として、平成18年に生活協同組合パルシステムの呼びかけに応じ、地元のJAかづのと飼料用米の取組を開始。現在では、JA全農あきたが県全体で飼料用米を集荷。
- JAかづのにおける飼料用米の作付面積は、平成19年の6.1haから平成27年には380.3haに拡大。
- ポークランドグループでは、JA全農北日本くみあい飼料(株)で製造された、飼料用米を30%配合した飼料を肥育豚(仕上期)に給与。生産した豚肉を、「日本のこめ豚」としてパルシステム生活協同組合連合会で、「米っこ桃豚」として県内量販店等で販売。

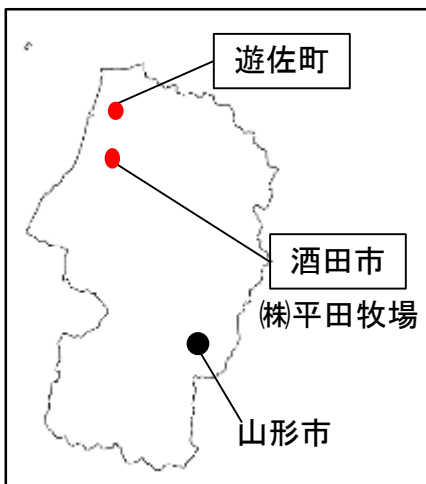
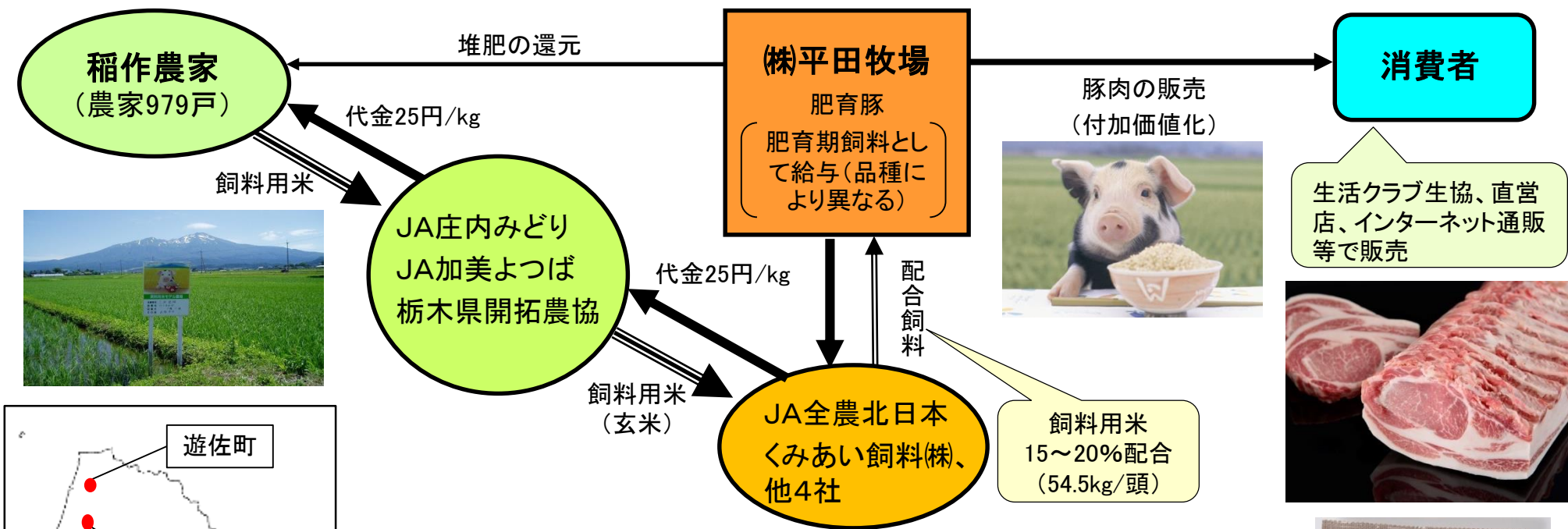


○ JAかづのにおける飼料用米の生産状況

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
作付面積 (ha)	6.1	9.1	47.8	144.6	243.4	218	203.8	265.5	380.3
生産量 (t)	34	47	273	673	1,057	1,150	959	1,488	2,210

【豚】（山形県（株）平田牧場）

- 農地の有効活用と水田の多面的な機能による環境保全、食料自給率の向上を目的として、平成16年に山形県遊佐町で「食料自給率向上特区」の認可取得し、組織された「飼料用米プロジェクト」に参画。
- 飼料用米の作付面積は、平成16年の7.8haから平成27年には1,626haに拡大（3県、3産地）。
- （株）平田牧場では、輸入トウモロコシの代替として飼料用米を15～20%配合した飼料を、肥育豚（全頭）に給与。生産した豚肉を、「こめ育ち豚」として、生活クラブ生協等を通じて販売。



○ 飼料用米プロジェクトにおける飼料用米の生産状況

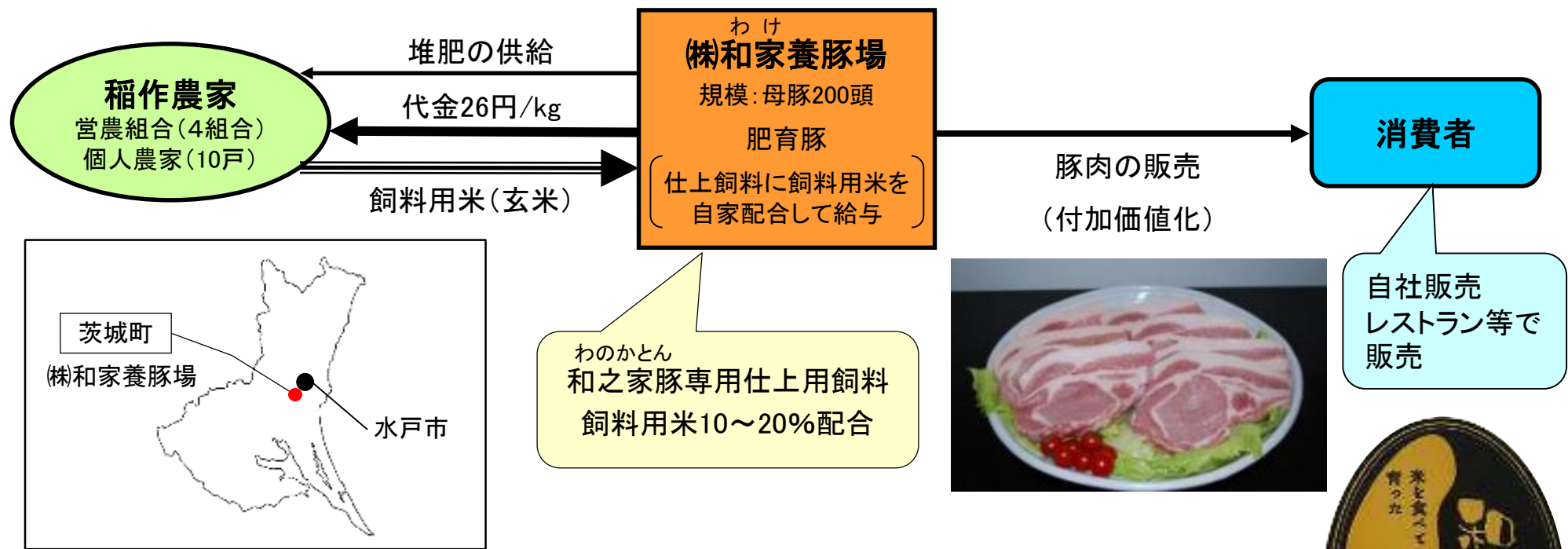
	H16	H22	H23	H24	H25	H26	H27
作付面積(ha)	7.8	890	1,149	958	834	1,305	1,626
生産量(t)	30.3	4,819	5,766	4,902	4,549	7,826	9,933
単収(kg/10a)	388	541	502	512	545	600	611

※H16は遊佐町の数値、H22～24は4産地の合計数値、H25からは3産地の合計数値



【豚】（茨城県（株）和家（わけ）養豚場）

- （株）和家（わけ）養豚場では、消費者の求める安心・安全面を考慮した豚肉生産、飼料自給力の向上を図るため、県内でいち早く、平成20年度に飼料用米の給与を開始。
- 茨城町内における飼料用米の作付面積は、平成20年の0.3haから平成27年には223ha（見込）に拡大。
- （株）和家養豚場では、飼料用米を自社専用の仕上用飼料に10～20%の割合で配合し、肥育豚に給与。生産した豚肉を、「和之家豚八十八（わのかとん やそはち）」として、自社で個人向けに販売している他、飲食店でも利用。

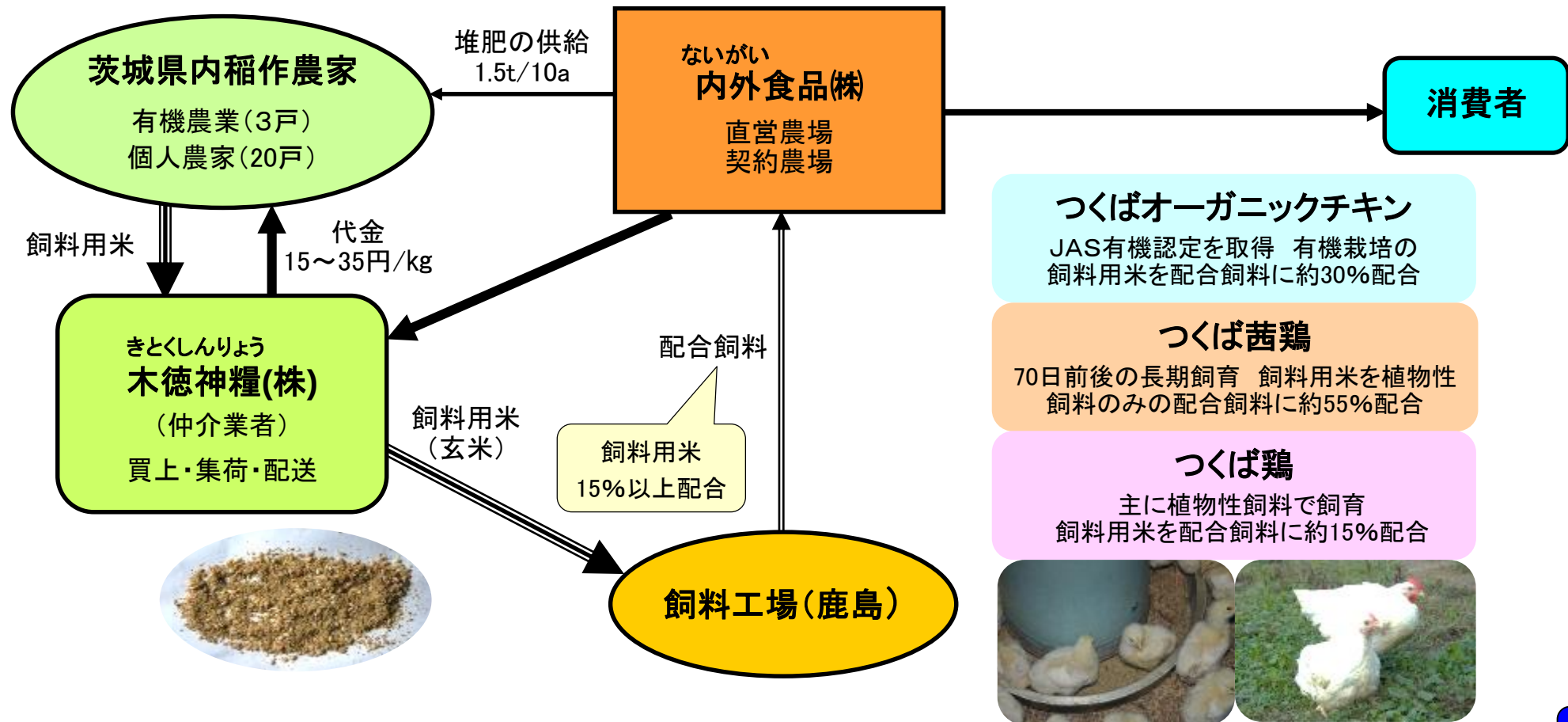


○ 茨城町における飼料用米作付面積の推移

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27(見込)
作付面積(ha)	0.3	11	29	51	44	43	97	223

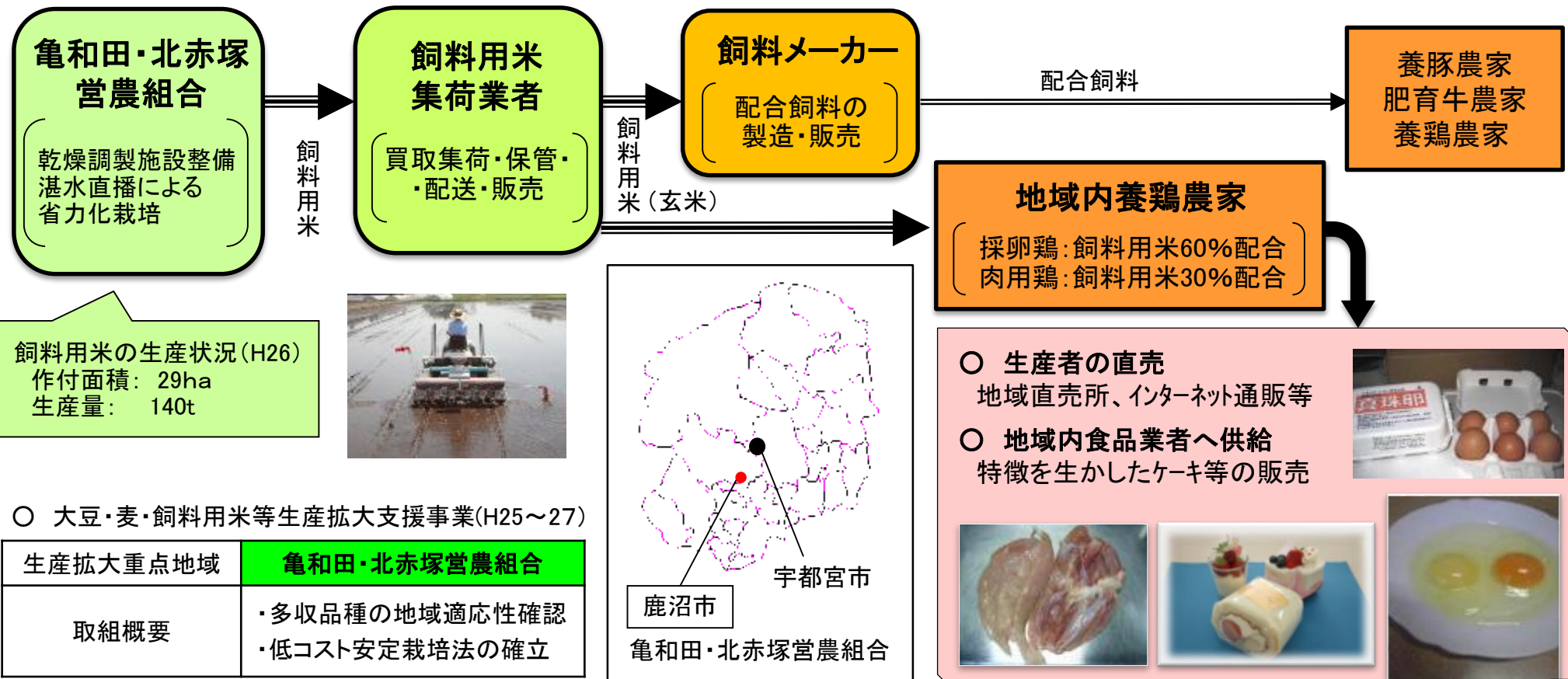
【ブローラー】(茨城県 木徳神糧(株)、内外食品(株))

- 循環型農業への取組によるトレーサビリティの実現や飼料自給率向上を目的として、米卸業者の木徳神糧(株)と、グループ会社の内外食品(株)(傘下の肉用鶏農場)が連携し、平成21年度から飼料用米の取組を開始。
- 内外食品(株)(傘下の肉用鶏農場)では、平成27年度に、茨城県産の飼料用米を約800t(約150ha)利用するとともに、埼玉県産と栃木県産の飼料用米(約400t)も利用を開始。今後も飼料用米の利用拡大を計画。
- 飼料用米を15～55%の割合で配合した自社専用の配合飼料を、肉用鶏に給与。生産した鶏肉を、「つくばオーガニックチキン」、「つくば茜鶏」、「つくば鶏」として、販売。



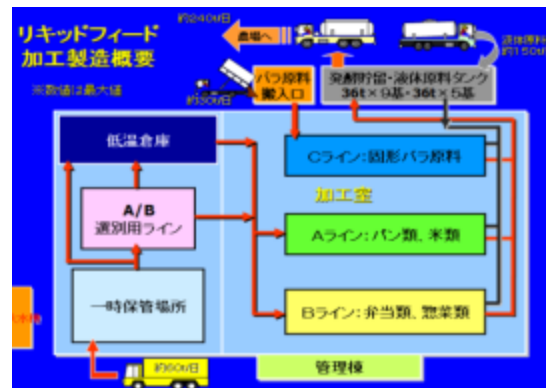
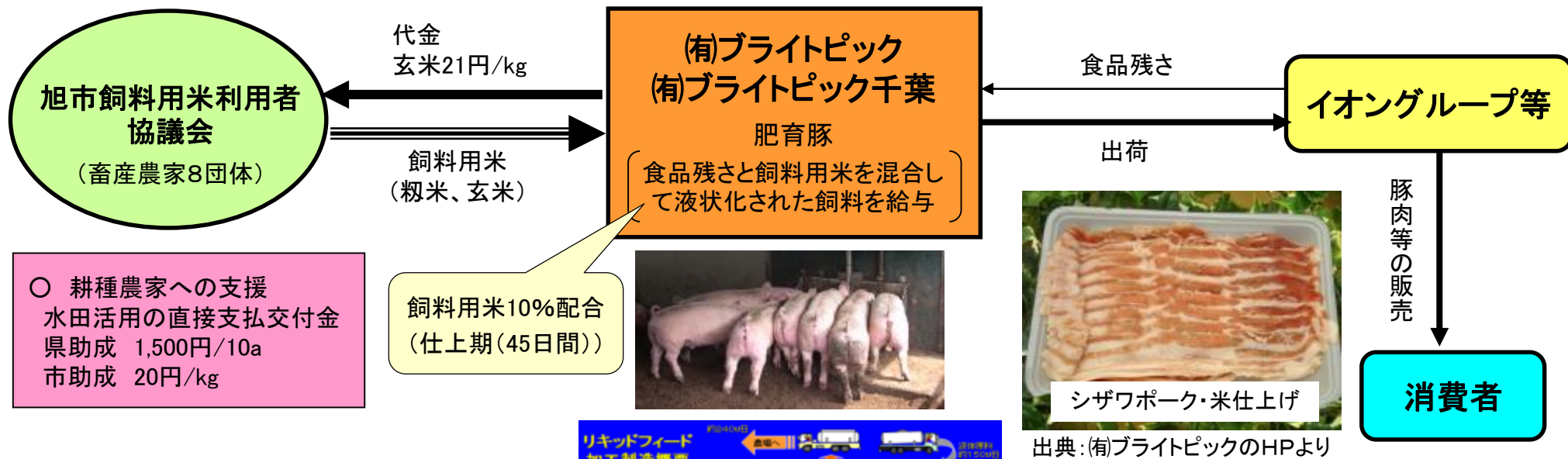
【採卵鶏・ブロイラー】（栃木県 亀和田・北赤塚営農組合）

- 亀和田・北赤塚営農組合は、平成21年に農山漁村活性化プロジェクト支援交付金を活用して、飼料用米の乾燥調製施設を整備し、飼料用米（多収品種）の鉄コーティング湛水直播栽培による低コスト・省力化生産の取組を開始。
- 配合飼料の製造コストを低減するため、飼料用米をフレコンばらで出荷し、作業を効率化。飼料メーカーは、飼料用米を原料として配合飼料を製造。
- 生産された飼料用米の一部は、地域の飼料用米集荷業者を通じて、地域内の養鶏農家に玄米で供給。
- 生産された畜産物は、「かめまの真珠卵」（鶏卵）、「鹿沼のこめっこ」（鶏肉）として、生産者により直売される他、地域内食品業者に供給。食品業者は、ブランド卵の特徴を生かしたケーキ等を製造し、販売。

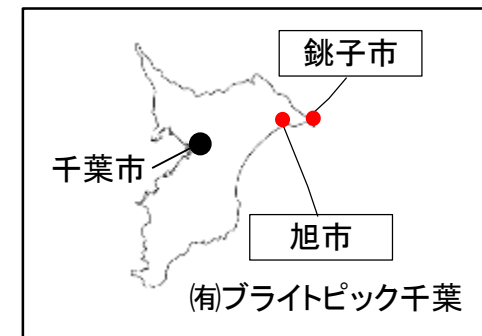


【豚】（千葉県 ブライトピックグループ）

- ブライトピックグループは、食料自給率40%の現状に大きな危機感を持ち、エコフィードにより環境への配慮に努めるとともに、食料自給率向上の観点から、平成20年より、飼料用米の給与を開始。
- 旭市飼料用米利用者協議会（ブライトピックグループが構成員）は、平成27年度に、旭市（182戸）で生産された約2,113ト（約326ha）の飼料用米を受入。（有）ブライトピックグループは、そのうち約1,164ト（約194ha）を購入する他、近隣1市からも約900トを購入。
- ブライトピックグループでは、食品残さを活用して製造された液状化飼料に飼料用米を混合・攪拌して、肥育豚（30,000頭）に給与。生産した豚肉を、食品残さの購入先の大手流通チェーン店等を通じて販売。



出典：（有）ブライトピック千葉のエコフィード取組概要



【採卵鶏】(長野県 農事組合法人 会田共同養鶏組合)

- 会田共同養鶏組合では、平成22年から、飼料用米(粳米)を3%配合した飼料を給与して生産した卵を、生活クラブ生協に供給。飼料用米の生産水田に、会田共同養鶏組合の鶏糞堆肥「福寿有機1号」を施用することを条件に、飼料用米の生産者と取引。
- 平成23年には、飼料用米の貯蔵庫を整備し、飼料用の生産者との取引を拡大。飼料用米を20%(現在:最大40%)配合した飼料を給与して生産した卵を、「あいだの米たまご」として、県内スーパー、小売店で販売。平成25年には、農産物直売所「たまごの駅」を開設。



鶏糞堆肥
「福寿有機1号」



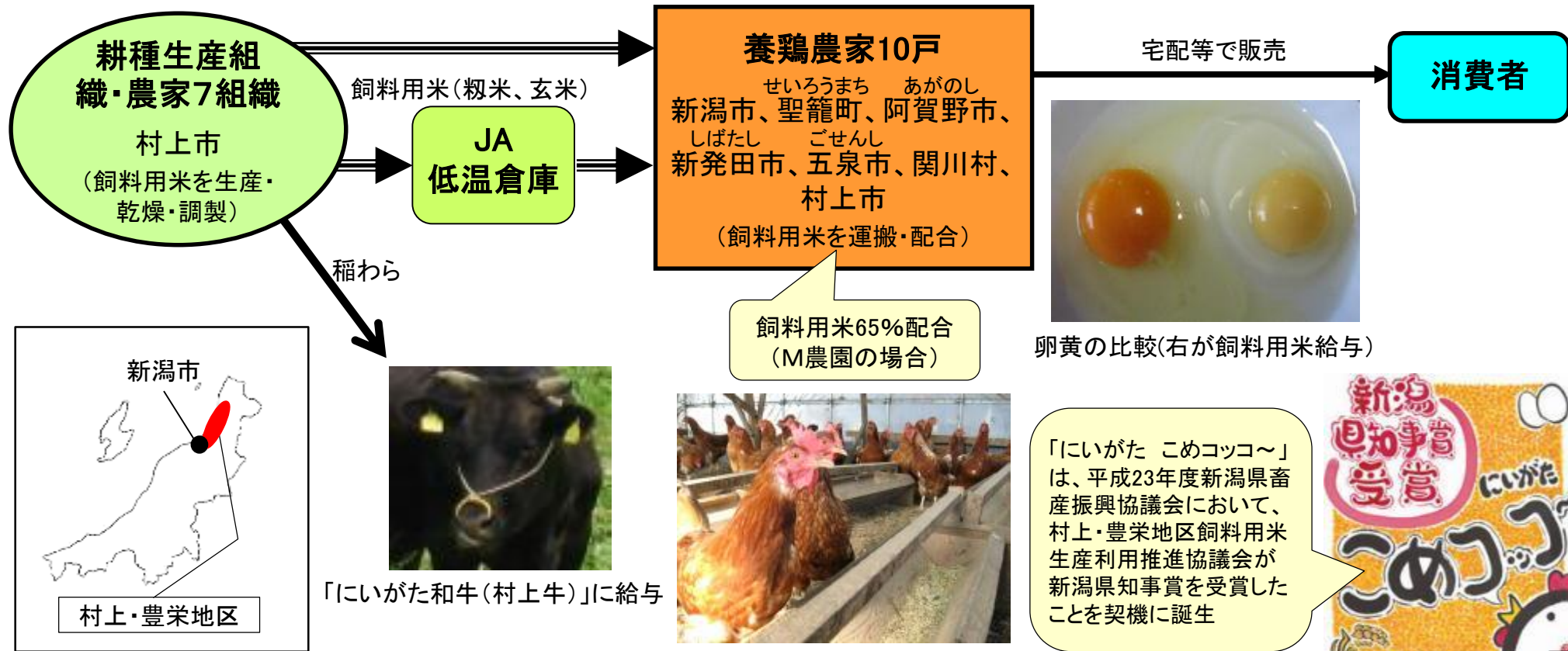
自家配合飼料工場にて専用
サイロからコンピューター制
御で自動配合



「あいだの米たまご」
従来商品より2割程高い価格で販売

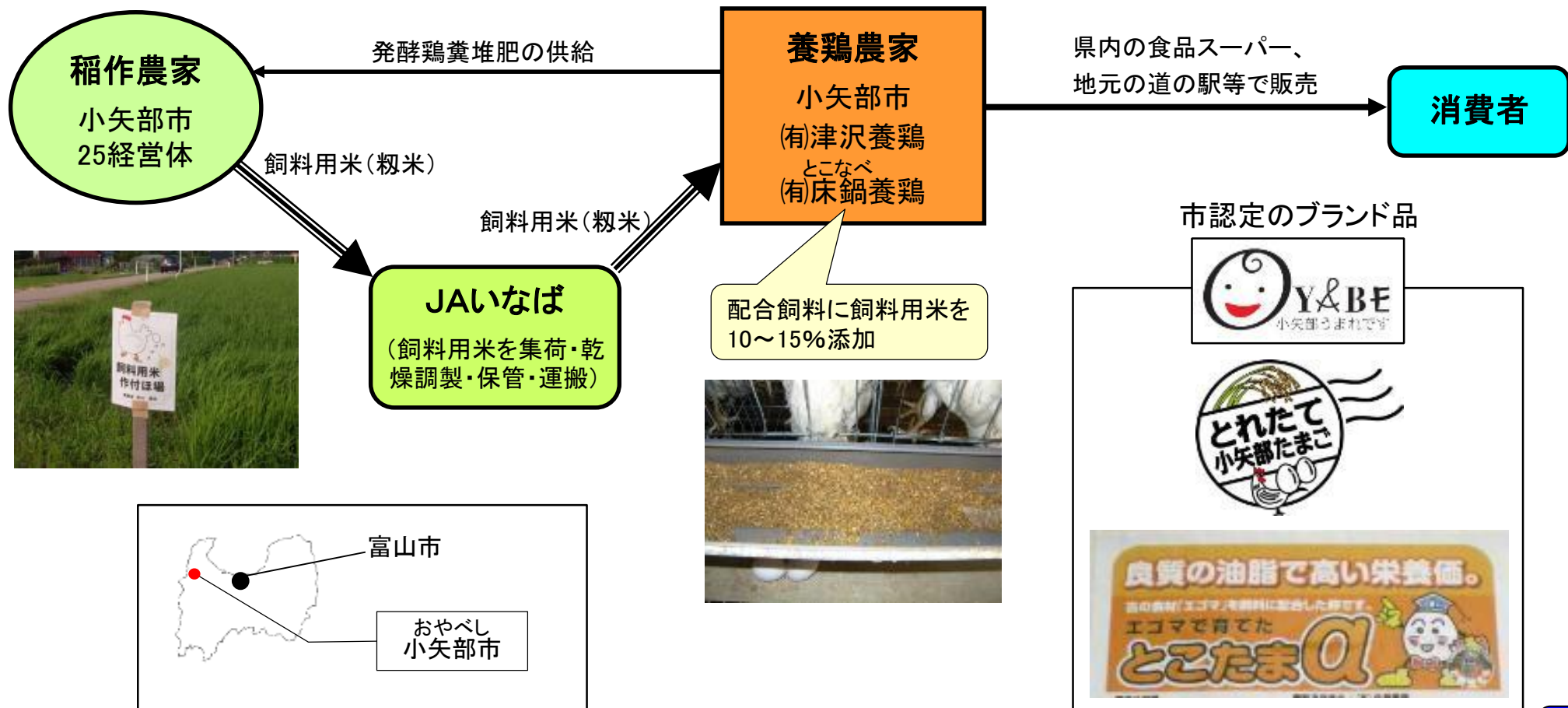
【採卵鶏】（新潟県 村上・豊栄(とよさか)地区飼料用米生産利用推進協議会）

- 高付加価値卵の生産や飼料コスト低減等が期待できるとして、平成20年に地域の養鶏農家、耕種農家等を構成員とする「村上・豊栄(とよさか)地区飼料用米生産利用推進協議会」を設立し、飼料用米の取組を開始。
- 協議会では、飼料用米の生産・利用計画の策定や代金精算等を実施。
- 飼料用米の作付面積は平成20年の6.4haから平成26年には18.3haに拡大し、利用農家は2戸から10戸に拡大。
- M農園では、飼料用米(玄米)を65%配合した飼料を、採卵鶏に給与。
- 利用農家10戸のうち5戸の農家で生産された卵は、「にいがた こめコッコ～」として、宅配等で販売。
- 飼料用米生産水田から収集された稲わらは、「にいがた和牛(村上牛)」に給与されるなど、耕畜連携の取組が進展。

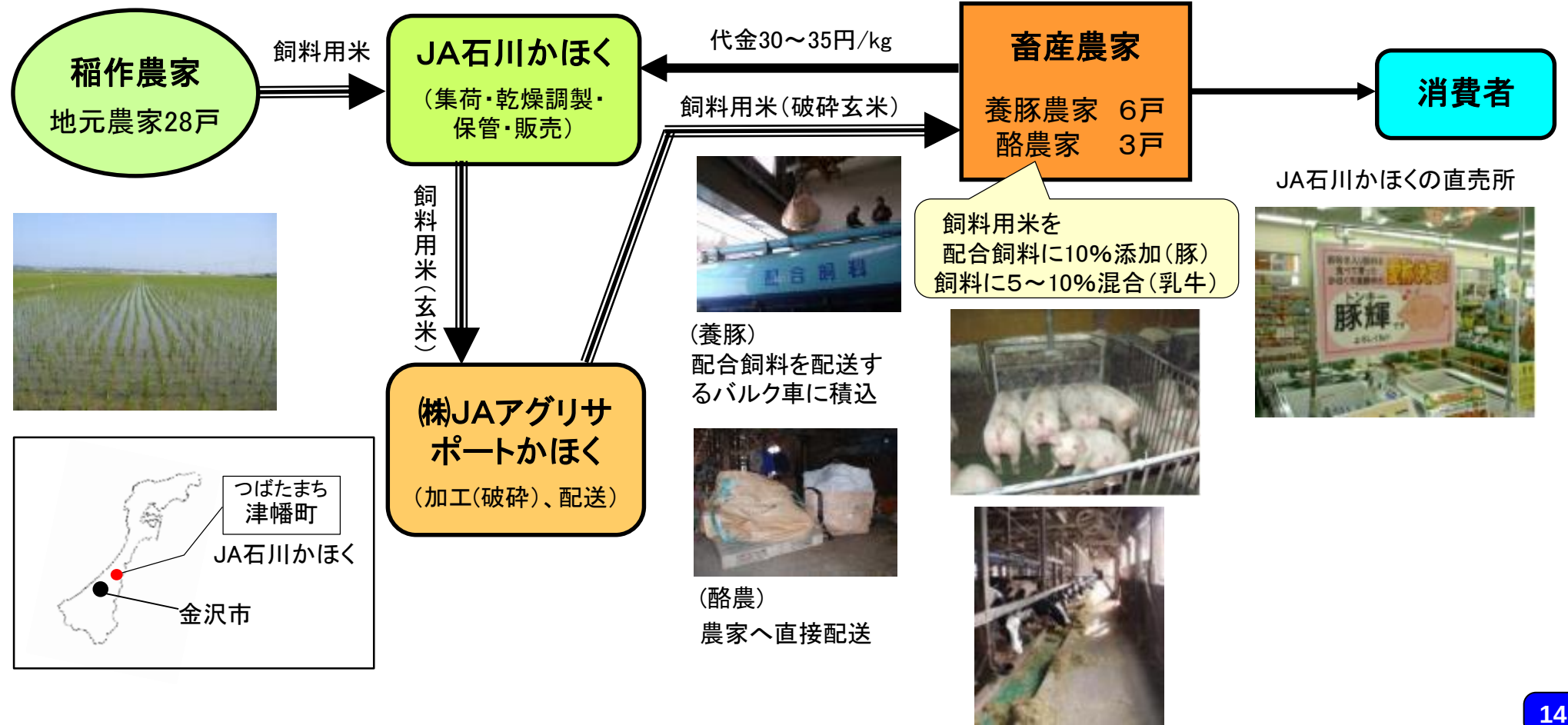


【採卵鶏】（富山県 小矢部市飼料用米推進協議会）

- 富山県の奨励品種（主食用米）「てんたかく」、「てんこもり」を活用した特産卵の生産や飼料費削減を目的として、平成20年に耕種農家、畜産農家、市、JA等を構成員とする「小矢部市飼料用米推進協議会」を設立し、飼料用米の取組を開始。
- 飼料用米の作付面積は、平成20年の13haから平成26年には80haに拡大。
- 地元の養鶏農家では、飼料用米（粳米）を配合飼料に10～15%混合して給与。生産した卵を、小矢部市のブランド特産品「小矢部の米（my）たまご」として、道の駅や県内スーパー等で販売。
- 鶏糞を発酵させた堆肥を、市内の米、大麦、大豆のほ場へ散布し、循環型農業を推進。



- JA石川かほくでは、管内不作付地の解消や飼料費低減を目的として、平成22年から飼料用米の取組を開始。
- 飼料用米の作付面積は、平成22年の78haから平成26年には141haに拡大。
- JA石川かほくが、飼料用米を集荷、乾燥調製、保管し、畜産農家に販売。(株)JAアグリサポートかほく(JA石川かほく出資型法人)が、飼料用米を加工(破碎)し、畜産農家に配送(近隣のみ)。
- 畜産農家は、飼料用米を5～10%配合した飼料を肥育豚や搾乳牛に給与。
- 飼料用米を給与した豚肉は、「豚輝(トンキー)」として、JA石川かほくの直売所で販売。



【採卵鶏】（岐阜県 岐阜養鶏農業協同組合）

- 平成19年に、養老町の耕種農家が生産した飼料用米(粳米)を養鶏飼料として活用できないか実証試験を実施。
- 平成20年に、飼料用米の生産農家が増え、飼料用米(粳米)の給与比率を20%に向上。
- 平成21年以降は、耕種農家、畜産農家とも飼料用米の取組を拡大。
- 県が主体で、飼料用米の大量流通方法や飼料用米を給与して生産された畜産物の普及、啓蒙活動を推進。

稲作農家

立毛乾燥

〔大規模農家の乾燥機を利用〕

岐阜市

養老町

岐阜養鶏農協

飼料用米
(粳米)

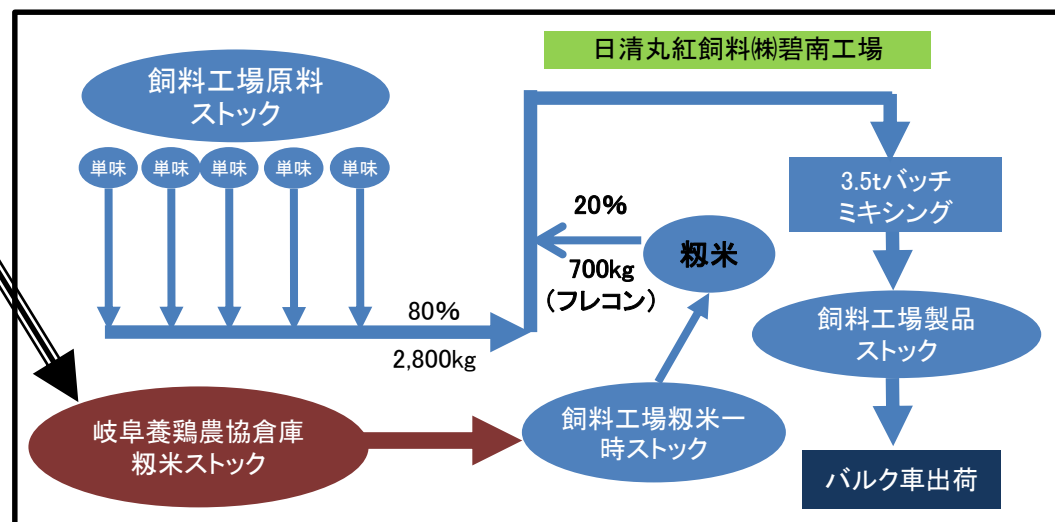
JAにしみの

一時保管

〔700kgフレコンバック
で1週間程度
JA倉庫で保管〕

飼料用(粳米)

岐阜養鶏農協の粳米指定配合飼料



○ 飼料用米の生産状況

	H19	H20	H23	H24	H25	H26	H27
地域数(市郡)	1	2	7	8	8	8	8
耕種農家数(戸)	7	14	62	65	56	62	56
作付面積(ha)	69	145	379	410	395	424	541
生産量(t)	188	613	1,870	2,028	2,453	2,693	3,269
作付品種	はまさり、クサノホシ	ホシアオバ、クサノホシ、クサノホシ、はまさり	クサノホシ、モミロマン、ホシアオバ、ハツシモ、あさひの夢	モミロマン、クサノホシ、ホシアオバ、ハツシモ、あさひの夢	クサノホシ、モミロマン、ホシアオバ、ハツシモ、あさひの夢、モグモグあおば	モミロマン、クサノホシ、ホシアオバ、ハツシモ、あさひの夢、モグモグあおば	モミロマン、クサノホシ、あさひの夢、モグモグあおば、ホシアオバ、ミツヒカリ

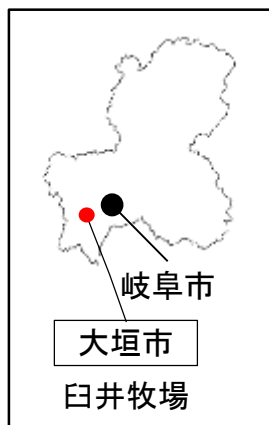
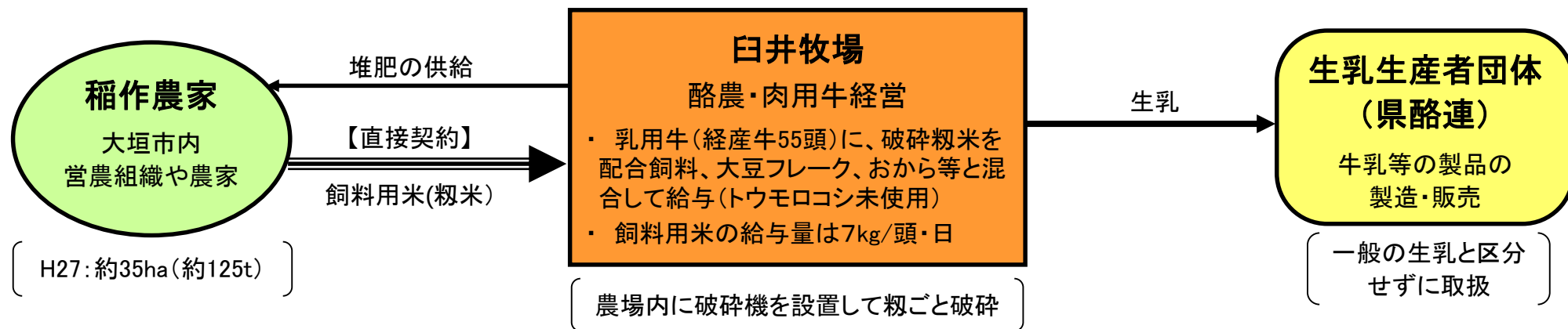
畜産農家

岐阜養鶏農協の種鶏場
(保管・利用)

〔保管場所がない場合は、
民間倉庫を利用〕

【乳牛】(岐阜県 臼井牧場)

- 臼井牧場では、平成22年に地域酪農グループと、飼料用トウモロコシの代替として破碎した飼料用米を乳牛に給与する試験を実施。平成24年には、トウモロコシ全量(濃厚飼料の30%)を飼料用米に置き換えて給与したが、生乳の品質及び牛体に問題はなく、飼料用米が有用な飼料であることを実証。
- 市内の営農組織や稲作農家から直接契約で飼料用米(粳米)を購入し、自場で破碎した粳米(7kg/頭)をトウモロコシの代わりに給与。これにより、試算では、年間約200万円のコストカットを実現。



粳ごと破碎できる破碎機
(RICE-COUNTER)を自ら開発



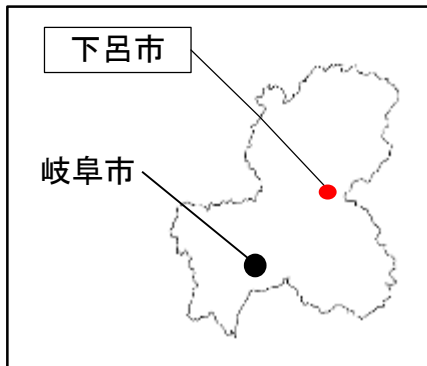
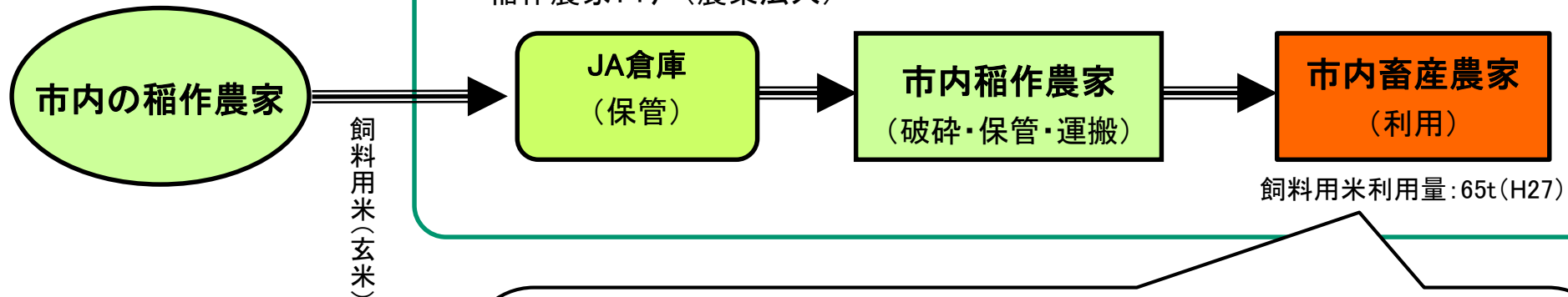
破碎した飼料用米

- 飼料用米による飼料費の低減効果(試算)
(トウモロコシ全量を飼料用米に置き換え、55頭に給与)

	単価 (円/kg)	給餌量 (kg)	飼料費 (円)
トウモロコシ (4.7kg/頭・日)	50	260	13,000
飼料用米 (7kg/頭・日)	20	385	7,700
1日当たり飼料費増減額			△5,300
年間飼料費増減額			△1,934,500

【肉牛・豚・ブロイラー】(岐阜県 下呂市飼料用米利用組合)

- 下呂市内で生産された飼料用米を、市内の畜産農家が利用することを目的に、平成23年に、稲作農家、肉用牛農家、養豚農家及び関係機関が協力して「下呂市飼料用米利用組合」を設立し、地域内で飼料用米の生産・利用を開始。
- 飼料用米利用と自給飼料生産を通じた地域農業との連携が拡大。



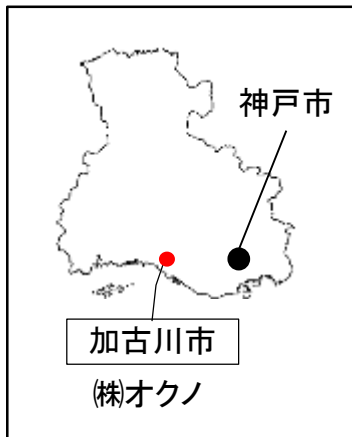
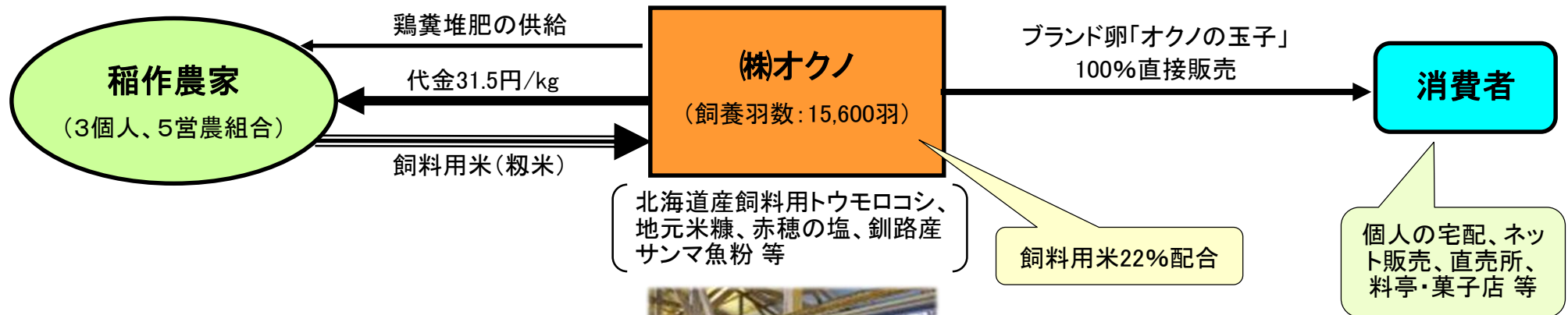
佐古牧場(肉用牛) 肥育牛120頭

- ・ 肥育牛に給与(生後約15ヶ月から出荷までの間)
- ・ 配合飼料等、通常の飼料に添加して給与
- ・ 約500g/頭・日



【採卵鶏】（兵庫県 ㈱オクノ）

- ㈱オクノは、輸入飼料価格の高騰等による生産コストの増大に対応するため、平成21年に地元の加古川市の稲作農家及び関係機関と協力して「飼料用米生産組合」を設立。国産飼料を活用した畜産物の差別化の取組を開始。
- 飼料用米の作付面積は、平成21年の0.6haから平成26年には20.9haに拡大。
- ㈱オクノでは、飼料用米他、北海道産飼料用トウモロコシ、釧路産サンマ魚粉、地元農協の米糠、赤穂の塩等、厳選した国産原料を自家配合した飼料を採卵鶏に給与。生産した卵を、農場ブランド卵「オクノの玉子」として、個人への宅配やインターネット販売、直売所等で100%直接販売。



○ 飼料用米の生産状況

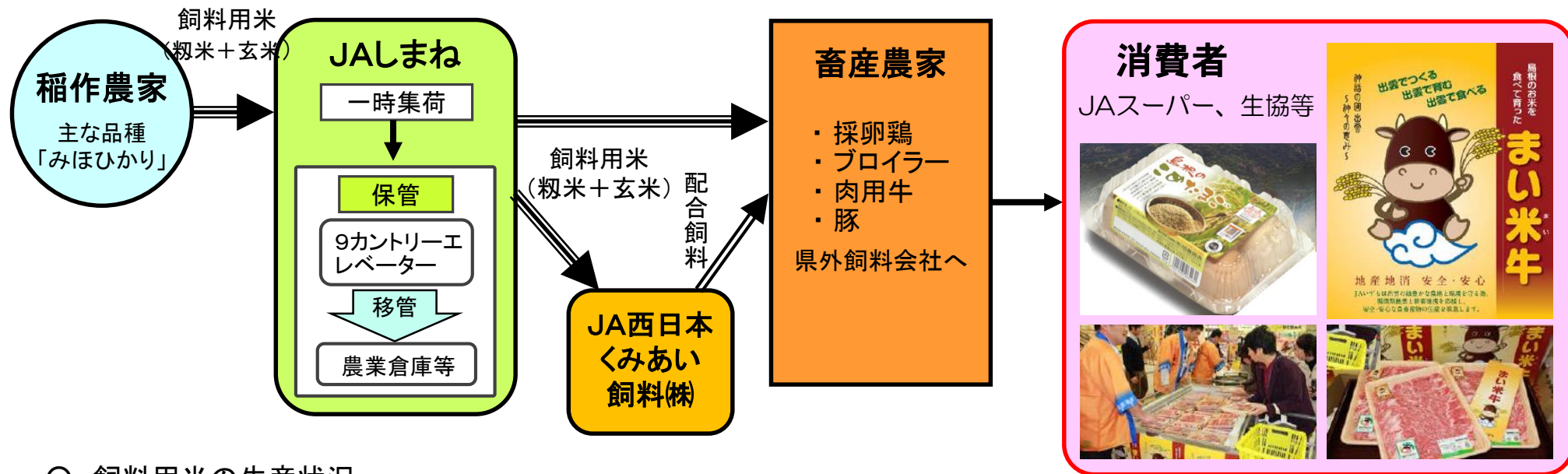
	H21	H22	H23	H24	H25	H26
作付面積 (ha)	0.6	2.7	15.0	13.0	15.4	20.9
生産量 (t)	3.9	13.5	87.0	71.5	79.0	125.1
単収 (kg/10a)	620.6	494.3	580.0	549.0	511.4	598.6



加古川産の農産物を継続的に提供する場として「加古川農家食堂」を経営

【肉牛・豚・採卵鶏・ブロイラー】（島根県飼料用米推進協議会）

- 主食用米の計画生産の推進、飼料自給率の向上に資する観点から、飼料用米の生産・利用の拡大、流通体制の構築を図ることを目的として、平成21年4月に「島根県飼料用米推進協議会」を設立。
（協議会構成員：JALしまね、JA西日本くみあい飼料㈱、県養鶏協会、県畜産振興協会、NOSAI、島根県）
- 飼料用米の作付面積は、平成21年の80haから平成27年には1,002haに拡大。
- 採卵鶏農家が中心となって飼料用米の利用を開始し、その後、利用農家が肉用牛肥育農家等の他畜種にも拡大。
- 県養鶏協会は、飼料用米を20%配合した飼料を給与して生産された卵を、「こめたまご」としてブランド化。JALしまね出雲地区本部は、飼料用米を20%以上添加した飼料を10ヶ月以上給与して生産された牛肉を、「まい米牛（まいぎゅう）」としてブランド化。
- ブランド化された畜産物は、JA直営スーパー、生協しまね等で販売。

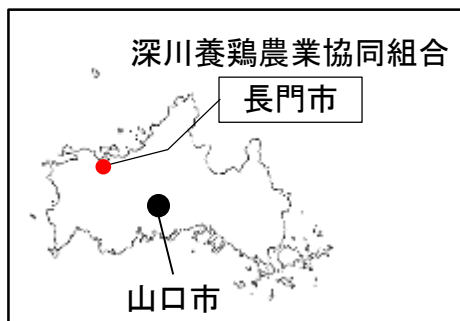
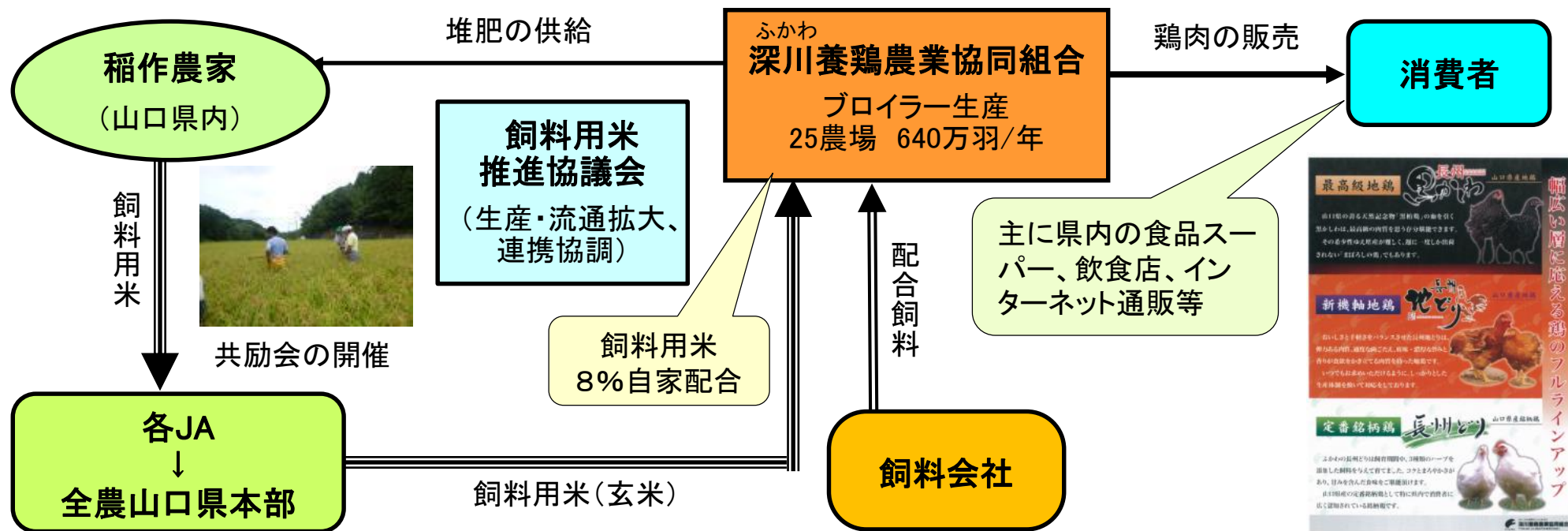


○ 飼料用米の生産状況

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27(見込み)
作付面積(ha)	80	355	699	556	525	707	1,002
生産量(粳換算)(t)	425	1,910	4,070	3,136	3,010	4,645	6,007

【ブロイラー】（山口県 深川(ふかわ)養鶏農業協同組合)

- 飼料用米の生産者団体と需要者団体との情報交換を通じ、生産・流通拡大の取組を推進するため、平成22年9月にJA県中央会（山口県地域農業戦略推進協議会）、全農山口県本部、養鶏協会、行政（国、県）を構成員とする「飼料用米推進協議会」を設置。
- 飼料用米の作付面積は、平成26年の267haから平成27年には597haに拡大。平成28年には、更に拡大する見込み。



○ 山口県の飼料用米作付面積の推移

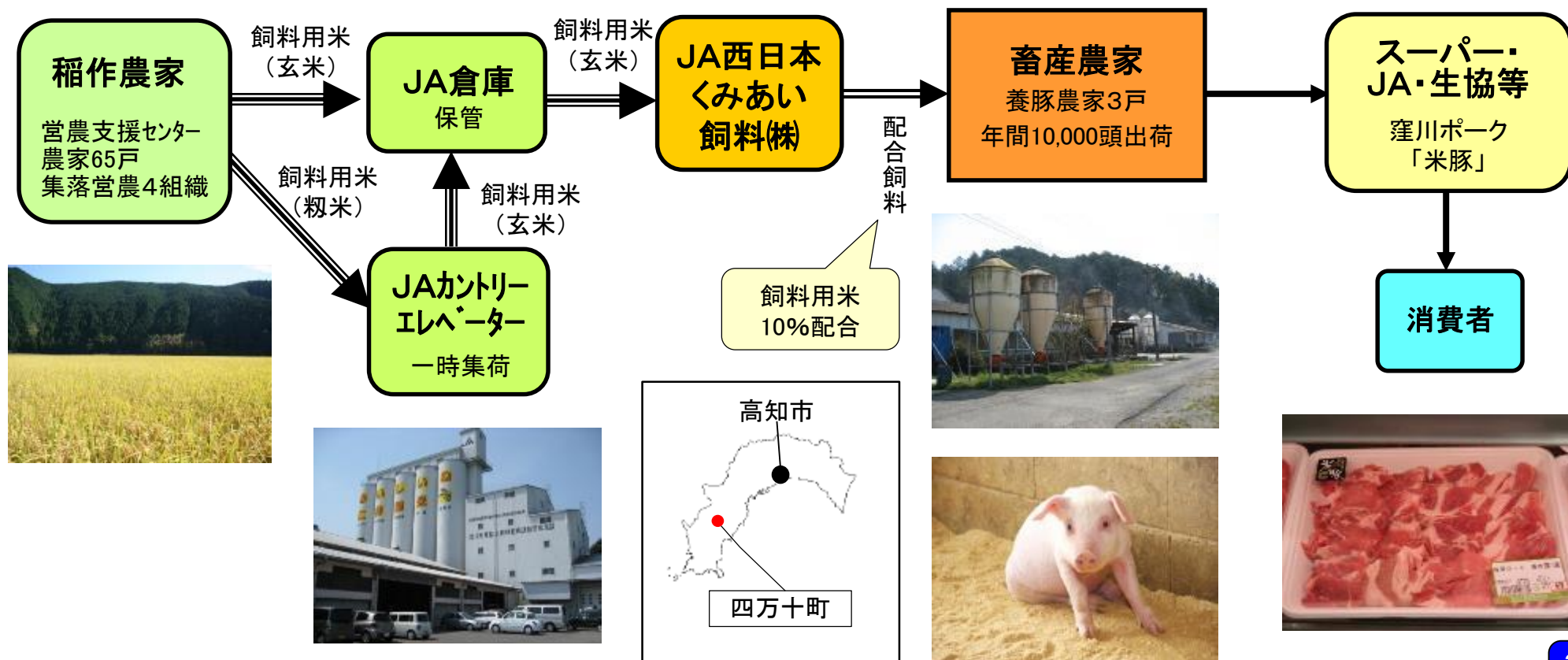
	H22	H23	H24	H25	H26	H27
作付面積(ha)	61	307	292	198	267	597



イベントでのPR

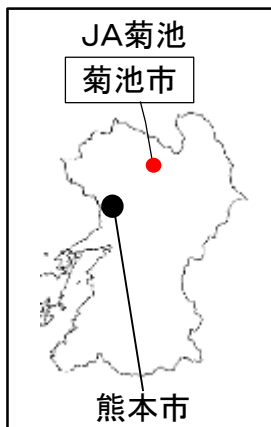
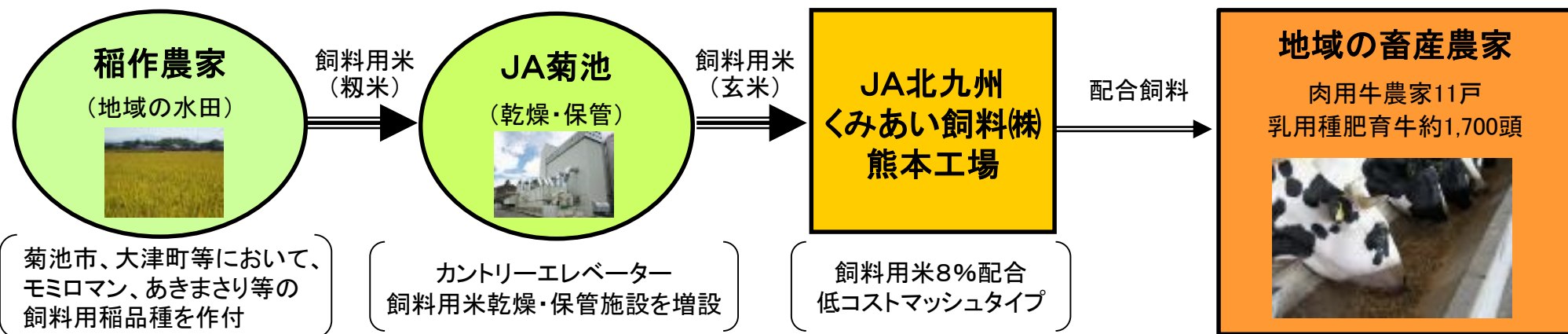
【豚】（高知県 四万十農協飼料米活用研究会）

- 水田の有効活用、飼料自給率の向上、畜産物のブランド化の観点から、飼料用米の生産・利用の拡大、流通体制の構築を図ることを目的として、平成20年に「四万十農協飼料米活用研究会」を設立。
（研究会構成員：畜産農家、JA四万十、(有)営農支援センター四万十、JA西日本くみあい飼料(株)、四万十町農林水産課、高知県西部家畜保健衛生所高南支所）
- 高知県は、飼料用米利用促進事業費補助金を設立し、飼料用米の安定確保、高品質な米豚の生産を支援。
- 飼料用米の作付面積は、平成20年の1haから平成27年には48haに拡大。
- 養豚農家（3戸）は、飼料用米を10%配合した飼料を肥育豚（10,000頭）に出荷前の2ヶ月間給与。生産した豚肉を、窪川ポーク「米豚」として、県内スーパー、JA直売所、生協等で販売。



【肉牛】（熊本県 JA菊池）

- 菊池地域では、平成21年より、肉用牛農家が飼料用米の給与を開始し、その後、飼料用米の利用を拡大。平成26年産については、肉用牛農家11戸が、生産された667ト（127ha）の飼料用米の一部を、肥育牛約1,700頭（乳用種肥育）に給与。
- JA菊池では、飼料用米の乾燥・保管施設を確保するために、地域のカントリーエレベーターに飼料用米の専用施設を増設。畜産農家の需要に応じて、JA北九州くみあい飼料(株)へ飼料用米（玄米）を搬送。JA北九州くみあい飼料(株)で飼料用米を8%配合した飼料を製造し、畜産農家に供給。畜産農家は、肥育全期間において、飼料用米を8%配合した飼料を肥育牛に給与。お米を食べて育った地域環境にやさしい牛として、これからも飼料用米の取組を拡大する意向。
- 飼料用米を給与した牛肉は、「地域環境にやさしいお肉、地産地消、エコ」を販売コンセプトに、「えこめ牛」として、JA菊池の直売所「きくちのまんま」やAコープ、県内外の量販店で販売。



○ 飼料用米利用状況

年産	H21	H26
作付面積(ha)	35	127
利用量(t)	198	667
給与頭数(頭)	420	1,700

牛肉のブランド化



JA菊池の直売所「きくちのまんま」等で販売



試食会

【採卵鶏】（大分県（有）鈴木養鶏場）

- （有）鈴木養鶏場では、平成19年より、採卵鶏に飼料用米の給与を開始し、その後、飼料用米の利用を拡大。平成23年には、飼料用米を20%の配合割合で、成鶏全15万羽に通年給与。平成25年には、飼料用米の配合施設を新たに設置し、30%の配合割合で、3万羽に給与（平成26年には、給与羽数を5万羽に拡大）。
- 生産した卵の約60%を、大手地元百貨店等で直販。また、アンテナショップと加工場を兼ねて平成13年にオープンした「鈴卵（すずらん）食品館」で、新鮮な卵他、「卵屋さんが作ったスイーツ」としてロールケーキやシュークリーム等の加工品を販売。「鈴卵食品館」は盛況で、1日に約300人が来店。
- 鶏糞を発酵させた良質な堆肥を、「鈴木の有機肥料（粃殻との混合）」として販売（約700トン/年）。飼料用米生産水田への有機肥料の還元を通じた資源循環型農業を実践し、地域の稲作農家との共存共栄を志向。



○ 飼料用米利用量の推移

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
利用量(t)	3	50	626	905	1,068	917	677	953



【肉牛】（大分県 豊後・米仕上牛（ぶんご・こめしあげぎゅう））

- 豊後高田市肥育部会では、平成21年より飼料用米の給与を開始し、その後、飼料用米の利用を拡大。平成26年産については、地域の肉用牛農家3戸が、飼料用米585ト（104ha）を肥育牛1,400頭（肉用交雑種・乳用種肥育）に給与。
- 飼料用米の保管と加工に係る委託先として、地域のライスセンターと飼料加工業者を飼料用米供給体制に組み込むことにより、飼料用米の周年給与が可能になり、肉用牛農家では、濃厚飼料の5～20%の代替として飼料用米を肥育牛（肥育後期）に給与。飼料用米の需要はまだまだ多く、これからも作付面積が拡大する見込み。
- 畜産農家と食肉卸売業者が連携し、「消費者が安心を感じるテーブルミート」を販売コンセプトに、飼料用米を給与した牛肉を「豊後・米仕上牛」としてブランド化。県内のスーパー「マルショク」を主体に、県内外の外食店舗や県外スーパーで販売。

